

補注 (編集者)

佐伯四國の創設は「大正六年(一九一七)十一月、弘法大師信

仰か人佐藤一哉が、南海部郡各村の寺庵八十八ヶ所を、靈跡巡礼の札所とした」(佐伯市史)なのであるが、昭和七年に活版印刷の冊子には、かなりちがひな点がある。この参考まで二二三の点を指摘し、尚若干の見聞を添えたい。

③ 右の吉田氏提供の資料は、原本は忠実に当時の所村名を用いておられる、これはよいことである。

④ 大きい寺院で且札所及本堂でなく境内にある観音堂・薬師堂・地藏堂などを充て、そこに弘法大師の像をまつて札所とした向が多い。そこで本堂本尊・札所本尊がこんがらがっている向がある。

⑤ 札所八番・九番・十番・五十五番・六十二番・六十三番については、この表と市史の表と相違がある。

⑥ 尚一々の札所所在地、寺庵名称、本尊・実際と相異するところもあるようで、これは何かの事情によるものがあるう。地区の会員の検討をお願いしたい。

⑦ それにしては村々の庵は大半は無住、おすかに篤信の老農たちが参拝し、線香を焚き、お湯をナヤけて、持折の花を供えておまつりしている。中にはそのように女ことと全くなく軒は傾き、瓦は落ち、雨戸すら満足に立てられていない。全く札所受難の時代である。

⑧ 旧正月も半ば過ぎた頃か、善男・善女のお遍路さんが、毎日幾組かが田舎道と通っていた。菅笠、負いづる金剛杵、そして鈴を鳴らしながら、茶屋の花屋へお参りを靈場札所とさして歩いていった。その姿、今はほとんど見かけない。

⑨ たゞ僅かに、大島と、畑野浦の人々が船やバスで佐伯まで出かけ、市内のお寺や近郊の庵など、八十八ヶ所ならぬ「十ヶ所まいり」とつづけているに過ぎない。(和)

追 信

(三月二十八日吉田氏より来信)

先日、靈村山までお出で下さいました。真に有難う御座りました。その節談しおとした事がありません。

佐伯四國八十八ヶ所祭願創建の記念碑が、平野入口踏切りのすぐ近くにありませす。ついでの時でも一寸立寄って見て下さい。

すじ神様 空壽院

佐伯四國八十八ヶ所 二番札所

佐伯西國三十三ヶ所 三十二番札所

お守者の氏名 岩本 慈観師

法名 空壽院僧都清林大徳居士

平野区の地藏様は、交通安全祈願のお地藏様で、又民の方々はその前を通る時には、みんな拝んでおります。ご参考になれ成幸いと思ひます。(後夏) 敬白

細則 龍護寺三首 山 田 力 三

十年前夫に添ひ赤し龍護寺史談会物故者の法要に招かる

逝きし人とともに祀りしその夫が今まへらるる龍護寺本堂

ありし日に夫の語りし史談会のテープ面輪 偲ばる龍護寺の書院

